

神津島における SES セレクティビティ - の可能性

A possible case of SES selectivity at Kozu-shima Island, Japan

織原 義明[1], 野田 洋一[1], 長尾 年恭[2], 上田 誠也[3]

Yoshiaki Orihara[1], Yoichi Noda[2], Toshiyasu Nagao[3], Seiya Uyeda[4]

[1] 理研・地震国際フロンティア, [2] 東海大・予知研究センター, [3] 理研・地震フロンティア

[1] IFPER, Riken, [2] Riken, [3] Earthquake Prediction Res. Center, Tokai Univ., [4] Int'l Frontier Program on Earthquake Res., RIKEN

<http://yochi.iord.u-tokai.ac.jp/eprc/>

伊豆諸島の神津島では、1997 年 5 月 14 日から地電位差連続観測が行われている。観測開始から 1999 年 11 月 30 日までの間に、VAN グループが主張する SES タイプの地電位差異常変化が 21 個観測された。また同期間中に観測点から半径 20km 以内で発生した地震のうち、マグニチュードが 3 より大きい地震は 26 個あった。本稿ではこれらの地電位差異常変化と地震との間に相関があるかどうかを検討した。その結果、異常変化の有無やその極性と震央位置との間にある規則的な傾向がみられた。しかしながらこの観測結果は、シグナルと地震との対応が完全に一対一ではなく、またサンプル数も少ないので、決定的なものとはいえない。